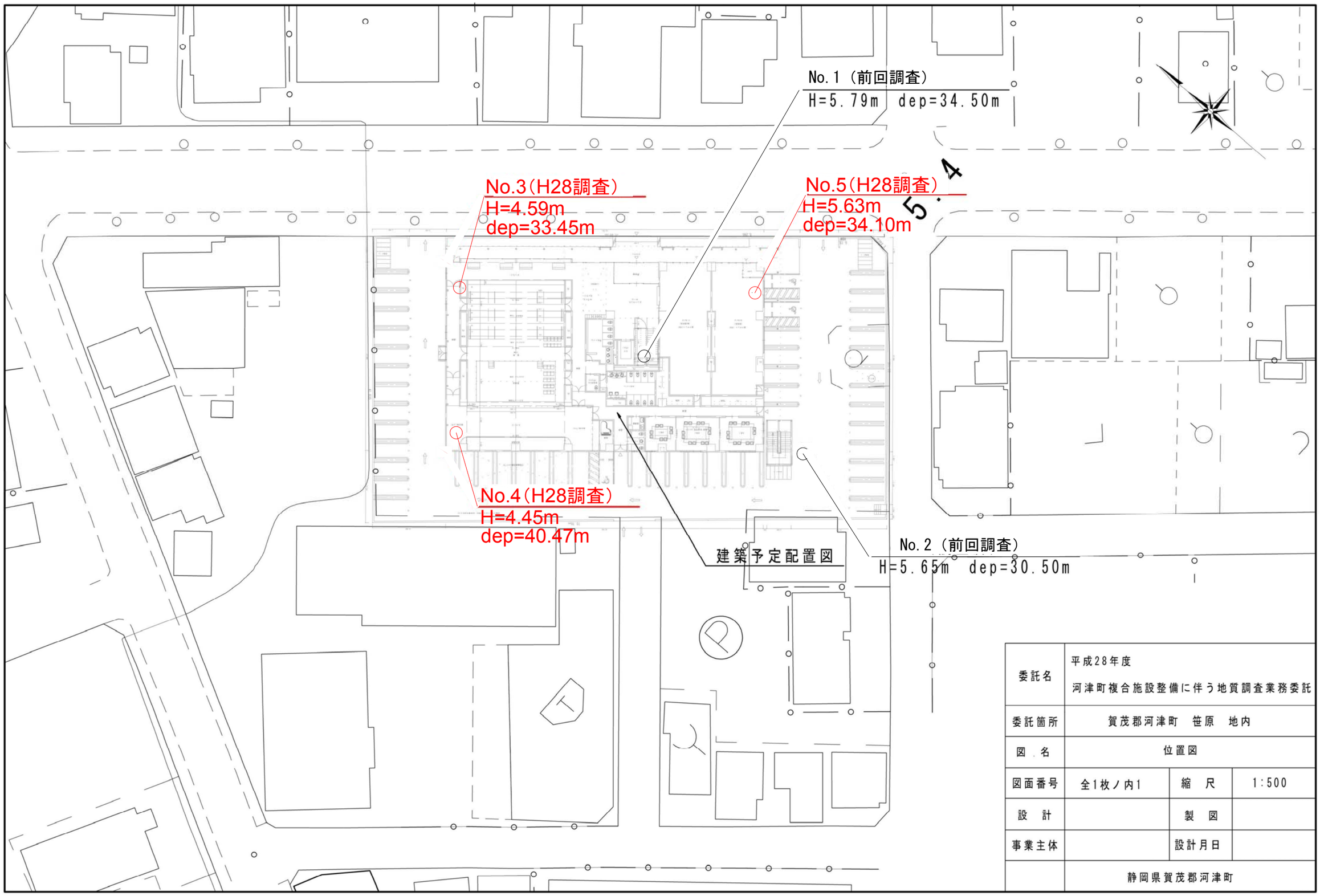


図1.2 調査位置平面図(S=1/500)

・　ボーリング柱状図

（前回調査含む）

ボーリング柱状図

調　査　名　平成28年度　河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

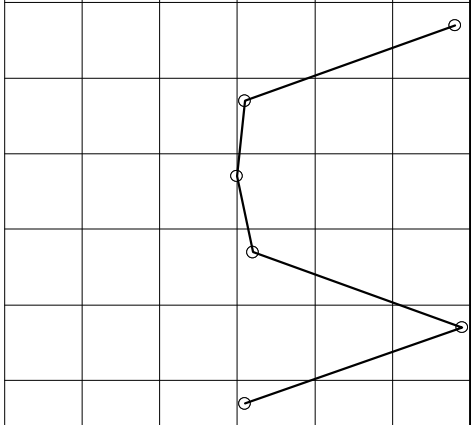
シートNo

ボーリング名	No.3	調査位置	静岡県賀茂郡河津町笹原地内							北緯	34° 44' 56.8"
発注機関	河津町まちづくり推進課				調査期間	平成 28年 7月 21日 ～ 28年 7月 28日				東経	138° 59' 37.7"
調査業者名	土屋産業株式会社 電話（055-963-0590）	主任技師	川瀬　泰裕		現場代理人	土屋　国彦	コア鑑定者	土屋　国彦		ボーリング責任者	沼上　俊己
孔口標高	H=4.59m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	KE50HCW	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	33.45m								エンジン	NFD-9	ポンプ	V5-P

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1	3.49	1.10	1.10		シルト	褐灰			GL-0.30mまで砂分を多く混入する。GL-0.90～-1.00m間にて砂質シルトを狭在。含水量は少ない。粘性弱い。														
2	2.84	0.65	1.75		シルト混り砂	褐灰	緩		細砂を主体とし，所々不規則に少量のシルトを混入する。GL-1.50～-1.70m間，シルト質砂状を呈する。含水量はやや少ない。														
3					玉石混り砂礫	褐灰	中位～緩		礫はφ5～40mm程の亜角礫を主体とし，少量の亜円礫を混入する。マトリックスは細砂～粗砂で，層上部は細砂を多く混入。GL-3.50～-4.00m間に玉石が点在。φ60mm程の片状コアーにて2つ採取。GL-3.10～-3.20m間及びGL-3.90m以深　含水量多い。GL-3.90～-4.50m間　逸水多い。(送水量の50%程が圧入)GL-5.00m以深　孔壁の崩壊性有り。	7/21 3.10 ▽													7/21
4																							
5	-1.31	4.15	5.90																				
6					礫混り砂	褐灰	中位		中砂～粗砂主体。φ5～30mmの亜角礫を混入する。砂が主体であるが，所々砂礫状を呈する。含水量やや多く，孔壁の崩壊が生じた。														
7	-3.01	1.70	7.60																				
8					細砂	暗灰	中位		均一な微細砂～細砂。砂粒状の貝殻片を混入。有機物を微量混入。細礫を所々で点在する。所々で礫層を3cm厚前後で狭在。含水量は中位。														
9																							
10																							
11																							
12	-7.81	4.80	12.40																				
13					シルト混り砂	暗灰	緩		均一な微細砂～細砂主体。砂粒状～破片状の貝殻片を散在。不均一にシルトや有機物を混入する。含水量は中位。														
14	-10.21	2.40	14.80																				7/22
15					細砂	暗灰	中位		均一な微細砂～細砂。貝殻片を狭在(砂粒状)。有機物を少量混入する。GL-15.30m付近にてシルトを薄層(1cm厚)で狭在した。														
16																							
17	-13.31	3.10	17.90																				
18					シルト混り砂	暗灰	中位		微細砂～細砂主体。所々中粒砂を混じる。不均一にシルトを混入。砂状～破片状の貝殻片を混入する。有機物を微量混入。含水量は中位。														
19	-15.01	1.70	19.60																				
20	-16.21	1.20	20.80		礫混り細砂	暗灰	中位		細砂～粗砂主体。礫はφ5mm以下の亜角礫主体に亜円～円礫が混在する。貝殻片を少量混入。含水量は中位。														
21					シルト混り砂	暗灰			微細砂～細砂主体。不均一にシルトや有機物を混入する。含水量は中位。GL-21.70m以深，所々で中～粗砂を混入														
22																							

22	-17.91	1.70	22.50	シルト混り砂	暗灰			微細砂～細砂主体。不均一にシルトや有機物を混入する。含水量は中位。 GL-21.70m以深，所々で中～粗砂を混入。
23	-19.11	1.20	23.70	礫混り砂	褐灰	中位		中砂～粗砂主体。φ2～15mm程の亜角～亜円礫を混入。 GL-22.60～-23.00m間　礫の混入が多い。 GL-23.30m付近　有機物を1cm厚で狭在。含水量はやや多い。
24	-20.46	1.35	25.05	砂礫	褐灰	中位		φ2～15mm程の亜円～円礫主体。最大径40mm程。砂は中砂～粗砂。含水量はやや多い。
25	-21.51	1.05	26.10	礫混り砂	褐灰	中位		均一な細砂主体。下部では細砂～中砂主体となる。GL-25.60m以深　φ2～15mmの亜円～円礫を混入。GL-25.60～-25.70m間　礫層を狭在。含水量はやや多い。
26	-22.31	0.80	26.90	砂混りシルト	暗灰		中位	シルト主体に不規則に細砂混入。含水量はやや少なく，粘性弱い。
27	-23.51	1.20	28.10	シルト質細砂	暗灰	中位		均一な微細砂主体。全体にシルトを混入する。有機物を微量混入。含水量やや多い。
28	-27.91	4.40	32.50	玉石混り砂礫	褐灰	極密～密～極密		φ5～30mm程の亜円～円礫主体。最大玉石径は100mm程。 砂は細砂～粗砂。 GL-28.10～-28.60m間　礫を多量に混入。含水量は中位。逸水，崩壊なし。 GL-29.50m以深　玉石を混入する。 玉石はφ50mm前後の片状コアにて採取され，1m間に1つ程度点在。
29	-28.86	0.95	33.45	シルト混り砂	暗灰	密		均一な微細砂主体。不均一に少量のシルト混入。所々で礫混り中砂～粗砂を1cm厚前後で狭在する。含水量は中位～やや少ない。

28.15	14	17	27	58/30	58
28.45					
29.15	10	10	11	31/30	31
29.45					
30.15	9	10	11	30/30	30
30.45					
31.15	10	11	11	32/30	32
31.45					
32.15	17	21	21	59/30	59
32.45					
33.15	10	10	11	31/30	31
33.45					



7/23

7/25

ボーリング柱状図

調　査　名　平成28年度　河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

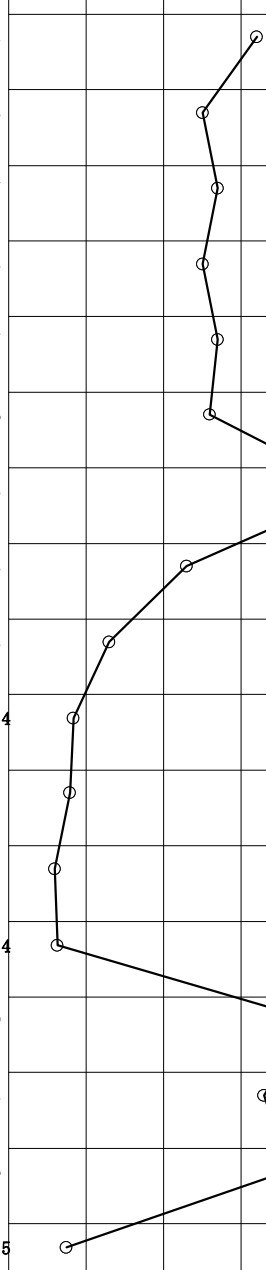
シートNo

ボーリング名	No.4	調査位置	静岡県賀茂郡河津町笹原地内							北緯	34° 44' 56.4"
発注機関	河津町まちづくり推進課			調査期間	平成 28年 7月 19日 ～ 28年 7月 28日					東経	138° 59' 37.1"
調査業者名	土屋産業株式会社 電話（055-963-0590）	主任技師	川瀬　泰裕	現場代理人	土屋　国彦	コア鑑定者	土屋　国彦			ボーリング責任者	高山　努
孔口標高	H=4.45m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0°	使用機種	試錐機	D0-DL	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	40.47m								エンジン	NFD-10M	ポンプ	V5-P

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
1 2	1.65	2.80	2.80		砂質シルト	暗灰～黄褐		軟～極軟	砂を全体に不均一に混入し，砂質シルト及び砂混りシルトの箇所を不規則かつ互層状に挟む。砂は細砂～微粒砂。層上部，含水量は中位。層下部に従い含水量多くなり軟らかい。	7/19 2.95 ▽												
3 4 5	-1.05	2.70	5.50		砂礫	灰黄褐	極緩		最大φ30mm，φ2～20mmの円～亜円礫主体。砂は細砂～粗砂。含水量は非常に多く締まり非常に緩い。掘削中完全逸水する。崩壊性有り。GL-3.20～-3.35m付近　コルク状に腐植した埋木混入。														7/19
6 7	-2.75	1.70	7.20		礫混り砂	黄褐灰			粒子不均一な細砂～粗砂。締まり緩い～中位。最大礫径70mm，φ2～30mmの円～亜円礫混入。部分的に礫混入多く砂礫質の所挟む。GL-6.00m以深　φ10mm以下の礫点在する。締まり中位。30～50%の逸水見られ，崩壊性有り。														
8 9 10 11 12	-7.55	4.80	12.00		細砂	暗青灰	中位		粒子均一な細砂主体。含水量は中位～やや多い。GL-9.70m付近までφ2～5mmの礫点在し，中砂～粗粒な砂を部分的に多く混入。GL-9.00m以深　有機物及び貝殻片混入見られる。部分的にシルト混り砂層挟む。														
13 14	-9.85	2.30	14.30		シルト混り砂	暗青灰	緩		粒子均一な細砂主体で含水量は中位。シルトの多い所と少ない所が不規則に互層状になっている。貝殻細片及び有機物を全体に不均一に混入。														
15 16 17 18 19 20 21	-17.05	7.20	21.50		細砂	暗青灰	中位		粒子均一な細砂～微細砂主体。含水量は中位。貝殻片及び有機物を全体に混入。部分的にシルト分を不均一に混入。GL-16.00～-16.50m間　貝殻片多く混入し，大きな貝殻片見られる。GL-16.50m以深，粒子不均一な細砂～粗砂。含水量は中位～やや多い。層下部に従い貝殻片少なくなる。部分的にシルトを混入し，有機物混入する。GL-19.00m以深　φ2～5mmの細礫点在し，GL-20.30m付近3cm位の層厚で有機質土層挟む。														7/20
22	-17.35	0.30	21.80		有機質シルト	黒褐			含水量は中位，粘性弱く半固結状を呈す(掘削中ポンプに圧力がかかった)														

-17.05	7.20	21.50					
-17.35	0.30	21.80	有機質シルト	黒褐			含水量は中位，粘性弱く半固結状を呈す(掘削中ポンプに圧力がかかった)
-19.55	2.20	24.00	礫混り砂	暗青灰～黄褐灰	中位		粒子不均一な細砂～粗砂。含水中位。φ2～5mmの細礫混入する。
-24.25	4.70	28.70	砂礫	黄褐灰	密～中位		最大φ50mm，φ2～20mmの円～亜角礫を20～50%混入。 砂は細砂～粗砂。少量の逸水見られるが崩壊性は少ない。 少量の粘性土を混入する所多く見られる。 GL-28.70mまでφ2～50mmの円～亜円礫主体の砂礫。砂は細砂～粗砂。部分的に少量の粘性土混入。
-26.35	2.10	30.80	玉石混り砂礫	黄褐灰	中位～密		最大玉石径100mm，平均礫径20～50mm。
-27.75	1.40	32.20	砂礫	黄褐灰	中位		GL-30.80m以深　礫径小さくなり砂主体の所見られる。部分的に含水量の多い所が見られる。少量の崩壊有り。
-29.25	1.50	33.70	シルト混り砂	暗灰	中位		層上部，含水量のやや多いシルトを多く混入。全体に含水量は中位，粘性中位。細砂をポケット状に混入。有機物少量混入。
-31.45	2.20	35.90	シルト質砂	暗青灰	緩		粒子均一な細砂～微細砂。均質なシルトを全体に混入。含水量は中位。粘性中位。
-32.35	0.90	36.80	砂質シルト	暗灰		中位	含水量は中位。粘性中位。不均質なシルト。微細砂～細砂を不均一に混入。有機物少量混入。
-35.35	3.00	39.80	玉石混り砂礫	黄褐灰	密		最大玉石径100mm，平均礫径2～50mmの円～亜円礫主体。砂は細砂～粗粒砂。 地層境界付近に埋木有り。玉石1ヶ混入。 GL-38.00m以深　部分的に礫混入少ない所見られる。 崩壊及び逸水見られない。
-36.02	0.67	40.47	砂質シルト	褐～暗青灰		中位	層上部，砂分多い。色調褐→暗青灰を呈す。含水量は中位～やや多い。粘性中位。不均質なシルト，細砂を部分的に多く混入する。

24.15	9	11	12	32/30	32
24.45 / 25.15	9	8	8	25/30	25
25.45 / 26.15	7	11	9	27/30	27
26.45 / 27.15	6	9	10	25/30	25
27.45 / 28.15	10	7	10	27/30	27
28.45 / 29.15	10	8	8	26/30	26
29.45 / 30.15	13	16	16	45/30	45
30.45 / 31.15	6	7	10	23/30	23
31.45 / 32.15	5	4/12	4/8	13/30	13
32.45 / 33.15	3/12	3	3	9/32	8.4
33.47 / 34.15	2/14	2/6	4	8/30	8
34.45 / 35.15	2/14	1/6	3	6/30	6
35.45 / 36.15	2	3/12	2/11	7/33	6.4
36.48 / 37.15	14	13	12	39/30	39
37.45 / 38.15	10	8	15	33/30	33
38.45 / 39.15	11	11	14	36/30	36
39.45 / 40.15	3/14	2/8	3	8/32	7.5
40.47					



7/21

7/22

7/25

ボーリング柱状図

調　査　名　平成28年度　河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No.5	調査位置	静岡県賀茂郡河津町笹原地内						北緯	34° 44' 55.7"
発注機関	河津町まちづくり推進課			調査期間	平成 28年 7月 13日 ～ 28年 7月 19日				東経	138° 59' 38.8"
調査業者名	土屋産業株式会社 電話（055-963-0590）	主任技師	川瀬　泰裕	現場代理人	土屋　国彦	コア鑑定者	土屋　国彦		ボーリング責任者	木伏　誠
孔口標高	H=5.63m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	34.10m								エンジン	NFD-10	ポンプ	V6-B

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	4.83	0.80	0.80		盛土（シルト質砂礫）	暗灰～褐灰			GL-0～-0.08m　砂及び砕石。以深はシルト混り砂礫～礫混りシルトを主体とする盛土。色調はGL-0.50m付近まで暗灰色，以深褐灰色を呈す。含水量は中～やや少ない。	
2	3.73	1.10	1.90		シルト	暗褐灰		軟	含水量は中位。粘性中位。	
	3.23	0.50	2.40		シルト混り砂	暗褐灰	中位		砂は微細砂～細砂を主体。全体的にシルト分を混入。含水量は中位。	
3 4 5 6 7 8	-2.37	5.60	8.00		玉石混り砂礫	暗褐灰	中位		最大玉石径120～150mm。平均礫径10～40mm。マトリックスは細砂～粗砂。礫は亜角～角礫主体。 玉石は1m間で1～2個程度点在する。 全体的に若干の掘削泥水の逸水有り。特にGL-6～-7m間逸水著しい。 孔壁崩壊のためケーシングパイプ打設。	7/13 4.50
	-2.87	0.50	8.50		砂礫	暗褐灰			最大礫径50～60mm，平均礫径5～15mm。マトリックスは細砂～粗砂。掘削泥水の逸水著しい。	
9	-3.72	0.85	9.35		礫混り砂	暗褐灰			礫分少なくなる。GL-9.00mまでケーシングパイプ打設。	
10 11 12 13 14 15	-9.37	5.65	15.00		シルト混り砂	暗灰	中位		砂は微細砂を主体とし，所々細砂混じる。 含水量は中位。 全体的にシルト分を混入する。 貝殻砂片を多く混入する。 部分的にシルト層，砂混りシルト等を挟む箇所有り。 GL-14m付近ではシルト，砂層共に5cm程度の互層状示す。	
16 17 18	-12.37	3.00	18.00		シルト質砂	暗灰			砂は微細砂を主体とし，細砂～中砂混じる。 全体的にシルト分を多く混入する。 層上部では，腐植土層を薄層～3cm程の層厚で挟む箇所多く存在。 貝殻細片，炭化した木片を混入する。 含水量は中位。	
19	-13.62	1.25	19.25		細砂	暗灰	中位		砂は均一な微細砂を主体とする。GL-18.00～-18.10m　シルト挟む。貝殻細片混入する。	
20 21 22					シルト混り砂	暗灰	緩		砂は微細砂を主体とする。 貝殻細片や炭化した木片を多く混入。 所々で1～5cm厚でシルト層，シルト質砂層を挟む。 GL-21～-22m間　細礫を極少量点在。	

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

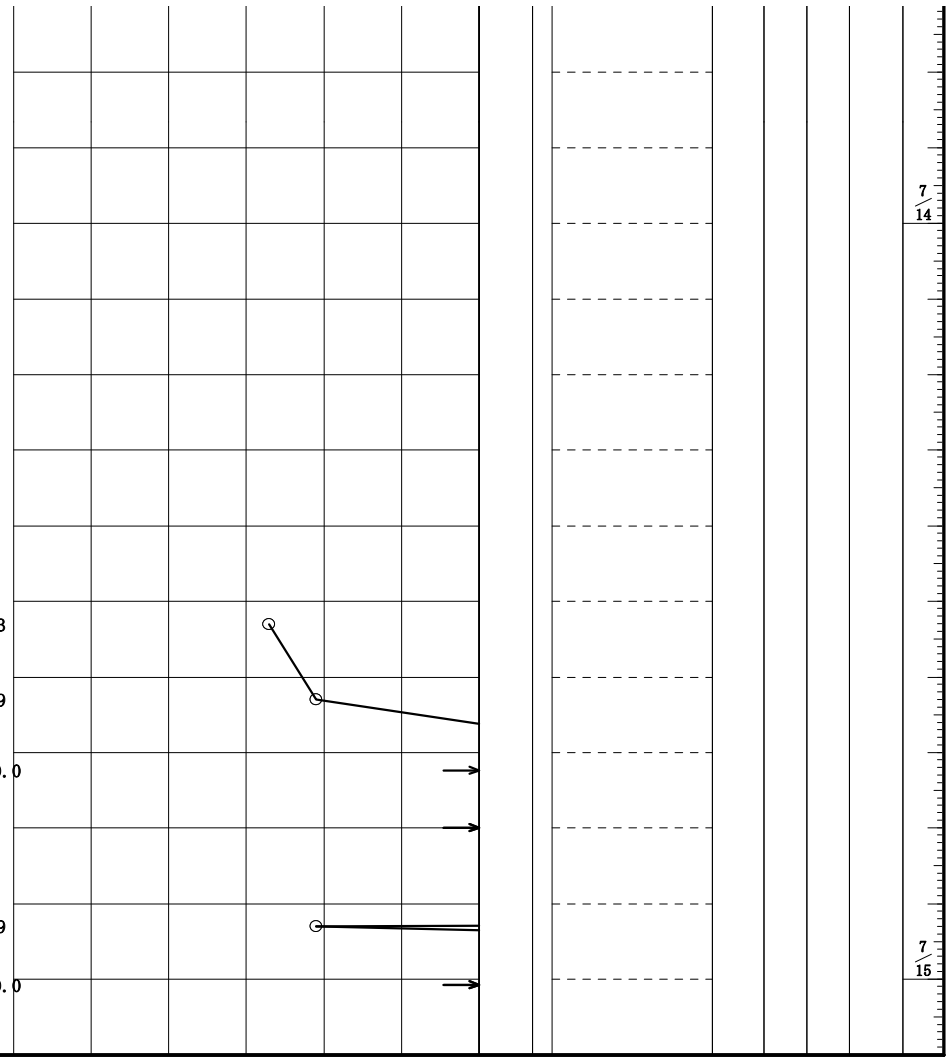
深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（　）

掘進月日：7/13

22 23	-17.82	4.20	23.45	ト混り砂	暗灰	緩		入。 所々で1～5cm厚でシルト層，シルト質砂層を挟む。 GL-21～-22m間　細礫を極少量点在。
24 25	-19.37	1.55	25.00	礫混り砂	暗灰	中位		砂は微細砂～細砂を主体とする。φ5～15mmの礫を点在する。全体的に若干のシルト分混入。含水量は中位。
26 27	-22.17	2.80	27.80	シルト	褐		中位	含水量は中位，粘性中位。 所々脈状及び薄層に砂層を挟む箇所有り。 GL-26.90～-27.15m間　砂層，砂礫層を挟む。
28	-22.87	0.70	28.50	礫混り砂	褐	中位		砂は細砂～粗砂主体。混入する礫はφ5～40mmの亜円礫主体。
29 30	-25.17	2.30	30.80	砂礫	褐	密		最大礫径60～70mm，平均礫径5～15mm。 マトリックスは細砂～粗砂。礫は亜円～亜角礫主体。含水量は中位。
31 32 33 34	-28.47	3.30	34.10	玉石混り砂礫	褐	密		推定最大玉石径150～200mm，平均礫径5～20mm。 マトリックスは細砂～中砂。礫は亜円～亜角礫。 玉石は連続して存在し，残留したコアはL=8～9cm。 GL-32.60mにて掘削泥水の全逸水有り。 GL-32.60m以深，最大玉石径80～90mm，平均礫径5～15mm。 マトリックスは細砂～中砂。礫は亜円～亜角礫主体。

29.15	9	11	13	33/30	33	
29.45 30.15	19	12	8	39/30	39	
30.45 31.15	18	42/8		60/18	100.0	
31.33 32.00	貫入不能			60/0		
32.00 33.15	10	12	17	39/30	39	
33.45 34.05	60/5			60/5	360.0	
34.10						



7/14

7/15

ボーリング柱状図

（前回調査）

調　査　名　平成27年度　河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo										

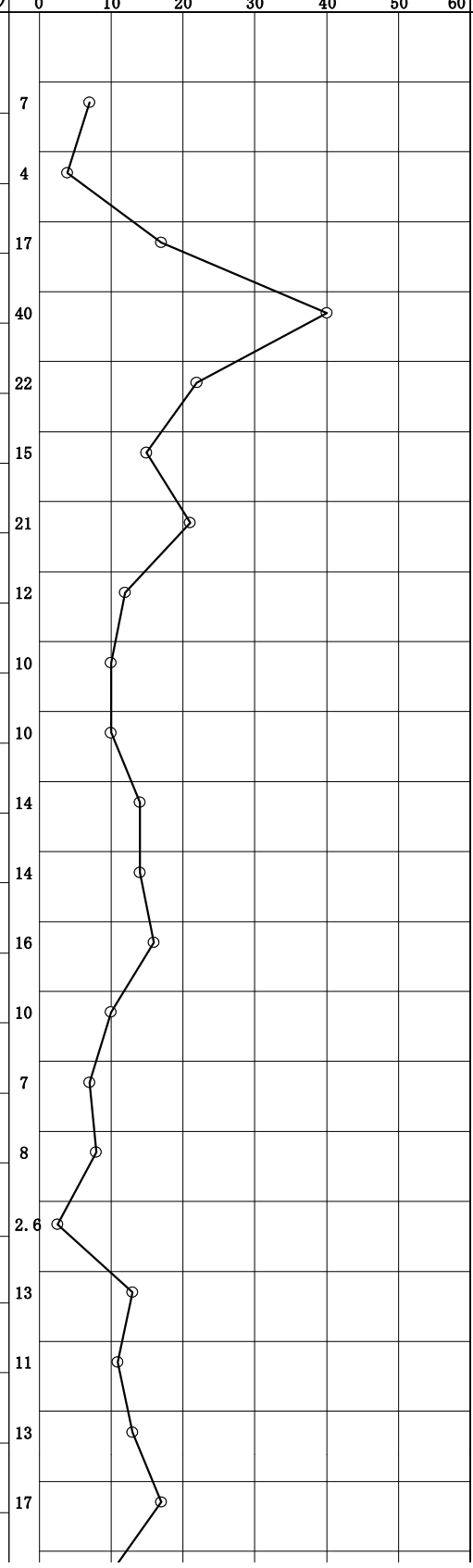
シートNo

ボーリング名	No.1	調査位置	静岡県賀茂郡河津町笹原地内							北緯	34° 44' 55.9"
発注機関	河津町まちづくり推進課			調査期間	平成 28年 1月 25日 ～ 28年 1月 28日					東経	138° 59' 38.1"
調査業者名	土屋産業株式会社 電話（055-963-0590）	主任技師	川瀬　泰裕	現場代理人	土屋　国彦	コア鑑定者	土屋　国彦			ボーリング責任者	木伏　誠
孔口標高	H=5.79m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0°	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	34.50m								エンジン	NFD-10	ポンプ	V6-B

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	4.99	0.80	0.80		盛土（シルト質砂礫）	褐灰			GL-0.30mまでは砕石主体。GL-0.30～-0.80m間はシルト質砂礫を主体とする盛土。全体的に凝灰質で礫混りシルト状示す箇所有り。	
2	3.19	1.80	2.60		シルト	褐灰		中位	含水量はやや少ない～中位。粘性は中位。	
3	2.49	0.70	3.30		シルト混り砂	褐灰			砂は微細砂主体。全体的にシルト分混入。含水量はやや少ない。	
4					玉石混り砂礫	暗褐灰	中位		最大玉石径100～120mm，平均礫径10～30mm。マトリックスは細砂～粗砂。 地下水以深は含水量，非常に多く，孔壁の崩壊・逸水著しい。 礫は亜角礫主体。玉石は1～2mで1個点在する。	1/25 4.60 ▽
5										
6										
7	-1.71	4.20	7.50							
8					礫混り砂	暗褐灰	中位		砂は細砂～粗砂主体。混入する礫は径3～20mmの亜円～円礫主体。 含水量はやや多い。	
9	-3.46	1.75	9.25							
10					シルト混り細砂	暗灰			砂は均一な微細砂を主体とする。 シルト分を少量混入する箇所有り。 全体的に貝殻破片（砂粒状）を混入する。 炭化した腐植物混入。 GL-11.05m付近少量の細礫混入。 GL-12.05～-12.25m　砂混りシルト層挟む。 部分的に細砂～中砂混入。	
11										
12										
13	-8.01	4.55	13.80							
14	-8.91	0.90	14.70		シルト質砂	暗褐	中位		砂は微細砂主体。全体的にシルト分混入。含水量は中位。炭化した腐植物や貝殻破片を混入する。	
15	-9.71	0.80	15.50		砂混り腐植土	黒褐		中位	含水量は少ない。半固結状を呈する。砂や貝殻破片を混入。。	
16					シルト混り砂	暗灰	緩		砂は微細砂～細砂を主体。全体的にシルト分混入。炭化した腐植物や貝殻砕片を混入。	
17	-12.16	2.45	17.95							
18					シルト質砂	暗灰	中位		砂は微細砂～細砂を主体とし，所々，中砂を混入する。含水量は中位。GL-18.50m付近　極少量の小礫混入。 GL-18.50m付近　極少量の細礫混入。 部分的にシルト混り砂状を示す箇所有り。 GL-20m付近やGL-21.0～-21.5m間，中～粗砂層挟み径3～5mmの礫点在する。	
19										
20										
21	-16.21	4.05	22.00							
22										

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	2	3	7/30	7
1.45 / 2.15	1	1	2	4/30	4
2.45 / 3.15	2	6	9	17/30	17
3.45 / 4.15	15	13	12	40/30	40
4.45 / 5.15	4	8	10	22/30	22
5.45 / 6.15	5	5	5	15/30	15
6.45 / 7.15	8	7	6	21/30	21
7.45 / 8.15	4	4	4	12/30	12
8.45 / 9.15	4	3	3	10/30	10
9.45 / 10.15	3	3	4	10/30	10
10.45 / 11.15	5	4	5	14/30	14
11.45 / 12.15	3	5	6	14/30	14
12.45 / 13.15	5	6	5	16/30	16
13.45 / 14.15	3	3	4	10/30	10
14.45 / 15.15	2	2	3	7/30	7
15.45 / 16.15	2	2	4	8/30	8
16.45 / 17.15	1/15	1	1	3/35	2.6
17.50 / 18.15	4	4	5	13/30	13
18.45 / 19.15	2	3	6	11/30	11
19.45 / 20.15	2	5	6	13/30	13
20.45 / 21.15	5	6	6	17/30	17
21.45	3	4	3	10/	



原位置試験

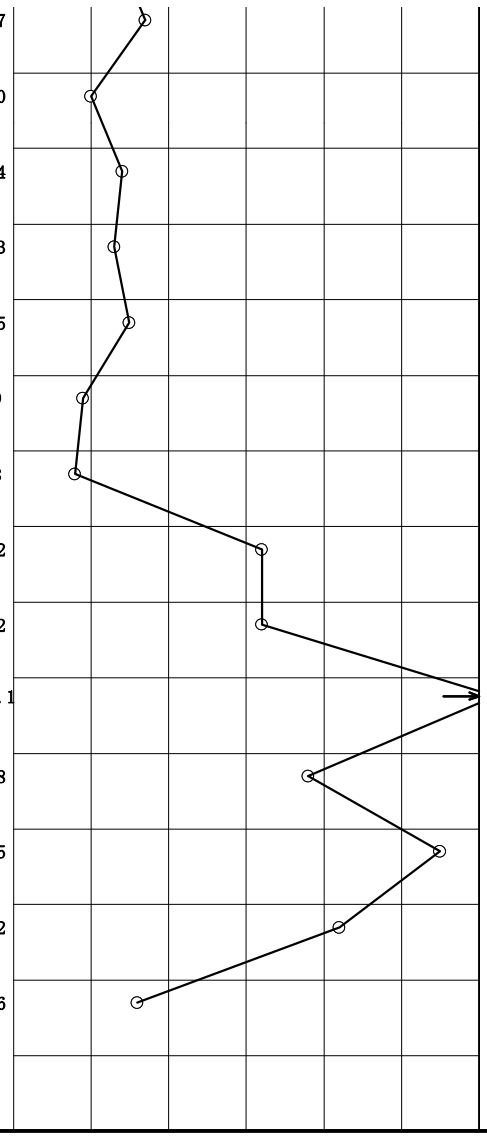
深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
6.15 / 6.45	P1-1	Ⓟ	粒度（フルイ）	
8.15 / 8.45	P1-2	Ⓟ	粒度（フルイ）	1/25
10.15 / 10.45	P1-3	Ⓟ	粒度（フルイ）	
12.15 / 12.45	P1-4	Ⓟ	粒度（フルイ）	
14.15 / 14.45	P1-5	Ⓟ	粒度（フルイ）	
15.15 / 15.45	P1-6	Ⓟ	粒度（フルイ）	
17.15 / 17.45	P1-7	Ⓟ	粒度（フルイ）	
19.15 / 19.45	P1-8	Ⓟ	粒度（フルイ）	

								る。
22	-16.21	4.05	22.00	シルト混り砂	暗灰	中位		砂は微細砂主体。細砂～粗砂混じる。全体的にシルト分混入する。含水量は中位。GL-22.25m付近，径6cm程度の倒木木片混入。
23	-17.26	1.05	23.05	礫混り砂	暗灰	中位		砂は細砂～中砂。混入する礫は径3～15mmの亜円礫。
24	-18.21	0.95	24.00	細砂	暗灰～褐灰	中位		砂は均一な細砂。GL-24.35m付近より褐灰色呈す。
	-18.71	0.50	24.50					
25				礫混り砂	褐灰	中位		砂は細砂～中砂を主体。混入する礫は少ない。礫は亜円～円礫で径5～20mm程度。
26	-20.16	1.45	25.95	シルト混り砂	暗灰	中位		砂は微細砂～細砂主体。全体的にシルト分混入する。含水量は中～やや多い。少量の細礫混入。
27	-21.26	1.10	27.05	シルト	暗灰		中位	GL-27.05～-27.15m間　礫混り砂層挟む。シルトは含水量中～多い。粘性弱い。
	-22.11	0.85	27.90					
28				砂礫	褐灰	密		最大礫径40～50mm，平均礫径5～15mm。マトリックスは細砂～中砂。礫は亜円～円礫で細礫多い。
29	-23.91	1.80	29.70					
30				玉石混り砂礫	褐灰	密		最大玉石径120～150mm，平均礫径5～15mm。マトリックスは細砂～中砂。礫は亜円～円礫主体。GL-31.60m付近，シルト層を薄く挟む。玉石は1m間で1～2個点在。
31								
32								
33	-27.91	4.00	33.70					
34	-28.71	0.80	34.50	シルト混り砂	暗灰	中位		砂は均一な微細砂を主体とする。全体的にシルト分混入。所々5cm程度の層厚でシルト層挟む。
35								

				30	17
21.45 / 22.15	3	4	3	10/30	10
22.45 / 23.15	4	6	4	14/30	14
23.45 / 24.15	4	5	4	13/30	13
24.45 / 25.15	6	5	4	15/30	15
25.45 / 26.15	2	4	3	9/30	9
26.45 / 27.15	4	2	2	8/30	8
27.45 / 28.15	13	10	9	32/30	32
28.45 / 29.15	10	10	12	32/30	32
29.45 / 30.10	24	24	12/9	60/29	62.1
30.39 / 31.15	11	15	12	38/30	38
31.45 / 32.15	13	14	28	55/30	55
32.45 / 33.15	12	14	16	42/30	42
33.45 / 34.15	4	5	7	16/30	16
34.45					



1/26

1/27

ボーリング柱状図

（前回調査）

調　査　名　平成27年度　河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

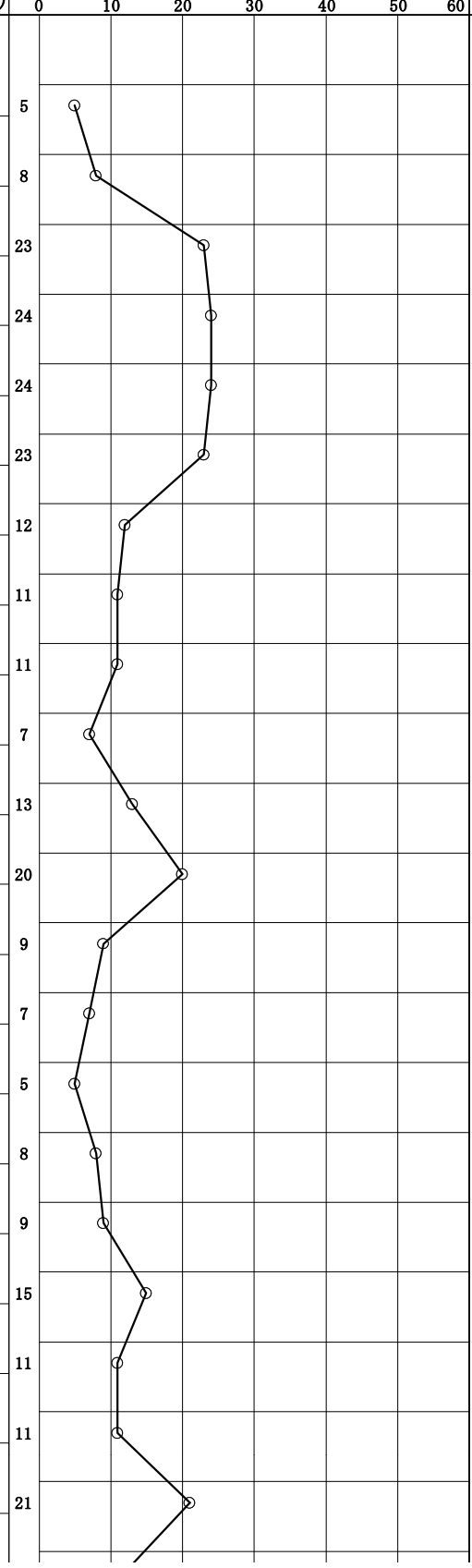
シートNo

ボーリング名	No.2	調査位置	静岡県賀茂郡河津町笹原地内							北緯	34° 44' 55.0"
発注機関	河津町まちづくり推進課			調査期間	平成 28年 1月 28日 ～ 28年 2月 2日					東経	138° 59' 38.3"
調査業者名	土屋産業株式会社 電話（055-963-0590）	主任技師	川瀬　泰裕	現場代理人	土屋　国彦	コア鑑定者	土屋　国彦			ボーリング責任者	木伏　誠
孔口標高	H=5.65m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0°	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	30.50m								エンジン	NFD-10	ポンプ	V6-B

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	4.60	1.05	1.05		盛土（混シルト質砂礫を含む玉石）	暗褐灰			GL-0.20mまでは砕石主体の盛土。GL-0.20～-1.05m間は玉石混りシルト質砂礫を主体の盛土。最大玉石径150～200mm，平均礫径10～30mm。マトリックスは凝灰質シルト。含水量は少ない。	
	3.85	0.75	1.80							
2					シルト	暗褐～褐灰		中位	含水量はやや少ない。粘性中位。	
	2.65	1.20	3.00		シルト混り砂	暗褐～褐灰	中位		砂は微細砂を主体とする。全体的にシルト分混入。含水量はやや少ない。	
3										
4					玉石混り砂礫	褐灰	中位		推定最大玉石径200～250mm，平均礫径10～30mm。マトリックスは細砂～粗砂。礫は円～亜角礫主体。玉石は1m間に1～2個程点在。 GL-4.70m付近には径250mm程度の玉石混入。採取されたコアはL=10cm。 全体的に掘削泥水の逸水著しい。	1/28 4.60
5										
6	-1.05	3.70	6.70							
7					細砂	褐灰	中位		砂は均一な微細砂～細砂を主体とする。層上部では最大径20mm，平均径5～10mm程度の礫を極少量混入する。所々で礫混り砂層を2～3cm程の層厚で挟む箇所有り。	
8										
9	-3.65	2.60	9.30							
10					細砂	暗灰	中位		砂は均一な微細砂～細砂を主体とする。 GL-9.30m付近より暗灰色となる。 GL-11.00m付近より貝殻砕片を混入。貝殻は砂粒状。 所々砂混りシルト層，砂質シルト層を挟む箇所有り。	
11										
12										
13	-7.35	3.70	13.00							
14					シルト質砂	暗灰	緩		全体的にシルト分を多く混入する。所々シルトと砂を互層状に挟む。含水量は中位。砂粒状の貝殻砕片を多く混入する。	
15										
	-10.15	2.80	15.80							
16					細砂	暗灰	中位		層上部でシルト分を少量混入する。全体的に微細砂～細砂主体。黒炭化した腐植物や砂粒状の貝殻砕片を混入。 GL-19.25～19.50m間　シルト層挟む。	
17										
18										
19										
20										
21										
22										

標準貫入試験

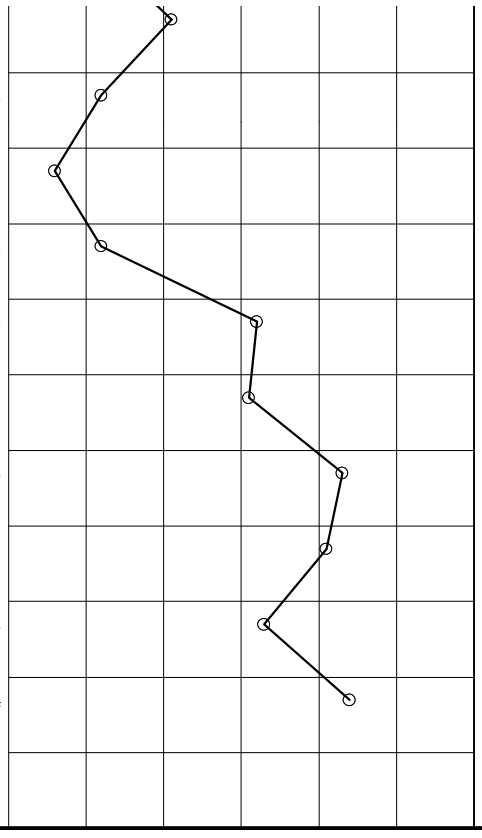
深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	2	1	2	5/30	5
1.45 / 2.15	2	3	3	8/30	8
2.45 / 3.15	7	8	8	23/30	23
3.45 / 4.15	8	7	9	24/30	24
4.45 / 5.15	9	8	7	24/30	24
5.45 / 6.15	6	9	8	23/30	23
6.45 / 7.15	4	4	4	12/30	12
7.45 / 8.15	4	3	4	11/30	11
8.45 / 9.15	4	3	4	11/30	11
9.45 / 10.15	2	3	2	7/30	7
10.45 / 11.15	4	4	5	13/30	13
11.45 / 12.15	5	7	8	20/30	20
12.45 / 13.15	2	4	3	9/30	9
13.45 / 14.15	2	2	3	7/30	7
14.45 / 15.15	1	2	2	5/30	5
15.45 / 16.15	2	2	4	8/30	8
16.45 / 17.15	2	3	4	9/30	9
17.45 / 18.15	5	5	5	15/30	15
18.45 / 19.15	5	3	3	11/30	11
19.45 / 20.15	2	4	5	11/30	11
20.45 / 21.15	5	7	9	21/30	21
21.45	2	4	6	12	



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						1/28

22	-17.05	6.90	22.70					
23	-18.25	1.20	23.90	砂混り シルト	暗灰		中位	含水量は中位。粘性弱い。砂分や有機物を少量混入。
24	-18.85	0.60	24.50	シルト 混り砂	暗灰	中位		砂は微細砂～細砂主体。全体的にシルト分混入。有機物を少量混入する。
25				砂礫	暗灰～褐灰	密		GL-29.70m付近までは，最大礫径50～70mm，平均礫径5～15mm。 マトリックスは細砂～粗砂。砂分多く所々礫混り砂状を示す箇所あり。 GL-29.60m付近より掘削泥水の逸水非常に著しい。 GL-29.70m以深　玉石が連続して存在する。最大玉石径150mm程度。
26								
27								
28								
29								
30	-24.85	6.00	30.50					
31								

				30	21
21.45					
22.15	2	4	6	12/30	12
22.45					
23.15	2	2	2	6/30	6
23.45					
24.15	3	4	5	12/30	12
24.45					
25.15	11	11	10	32/30	32
25.45					
26.15	10	11	10	31/30	31
26.45					
27.15	15	14	14	43/30	43
27.45					
28.15	12	13	16	41/30	41
28.45					
29.15	10	11	12	33/30	33
29.45					
30.15	12	13	19	44/30	44
30.45					



1/30

2/1

・　室内土質試験結果

土 質 試 験 結 果 一 覧 表 （基礎地盤）

調査件名　平成27年度 河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託

整理年月日　平成28年2月17日

整理担当者　小川 良紀

試料番号（深さ）		P1-1 (6.15～6.45m)	P1-2 (8.15～8.45m)	P1-3 (10.15～10.45m)	P1-4 (12.15～12.45m)	P1-5 (14.15～14.45m)	P1-6 (15.15～15.45m)
一般	湿潤密度 ρ_t g/cm³						
	乾燥密度 ρ_d g/cm³						
	土粒子の密度 ρ_s g/cm³						
	自然含水比 w_n %						
	間隙比 e						
	飽和度 S_r %						
粒度	石分（75mm以上）%						
	礫分[1]（2～75mm）%	77.6	28.1	3.6	0.6	0.2	0.9
	砂分[1]（0.075～2mm）%	19.3	60.6	73.8	65.7	62.6	49.0
	シルト分[1]（0.005～0.075mm）%	3.1	11.3	22.6	33.7	37.2	50.1
	粘土分[1]（0.005mm未満）%						
	最大粒径 mm	26.5	19.0	9.50	4.75	4.75	9.50
	均等係数 U_c	18.7	---	---	---	---	---
	曲率係数 U_c'	1.20	---	---	---	---	---
コンシステンシー特性	液性限界 w_L %						
	塑性限界 w_P %						
	塑性指数 I_P						
分類	地盤材料の分類名	粒径幅の広い砂質礫	細粒分まじり礫質砂	細粒分質砂	細粒分質砂	細粒分質砂	粘性土
	分類記号	(GWS)	(SG-F)	(SF)	(SF)	(SF)	[Cs]
圧密	試験方法						
	圧縮指数 C_c						
	圧密降伏応力 p_c kN/m²						
一軸圧縮	一軸圧縮強さ q_u kN/m²						
せん断	試験条件						
	全応力 c kN/m²						
	全応力 ϕ °						
	有効応力 c' kN/m²						
	有効応力 ϕ' °						

特記事項

1）石分を除いた75mm未満の土質材料に対する百分率で表す。

［ 1kN/m² ≒ 0.0102kgf/cm²］

土 質 試 験 結 果 一 覧 表 （基礎地盤）

調査件名　平成27年度 河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託

整理年月日　平成28年2月17日

整理担当者　小川 良紀

試料番号（深さ）			P1-7 (17.15～17.45m)	P1-8 (19.15～19.45m)				
一般	湿潤密度 ρ_t g/cm³							
	乾燥密度 ρ_d g/cm³							
	土粒子の密度 ρ_s g/cm³							
	自然含水比 w_n %							
	間隙比 e							
	飽和度 S_r %							
粒度	石分（75mm以上）%							
	礫分[1]（2～75mm）%		1.6	0.2				
	砂分[1]（0.075～2mm）%		75.5	68.1				
	シルト分[1]（0.005～0.075mm）%		22.9	31.7				
	粘土分[1]（0.005mm未満）%							
	最大粒径 mm		4.75	4.75				
	均等係数 U_c		---	---				
	曲率係数 U_c'		---	---				
コンシステンシー特性	液性限界 w_L %							
	塑性限界 w_P %							
	塑性指数 I_P							
分類	地盤材料の分類名		細粒分質砂	細粒分質砂				
	分類記号		(SF)	(SF)				
圧密	試験方法							
	圧縮指数 C_c							
	圧密降伏応力 p_c kN/m²							
一軸圧縮	一軸圧縮強さ q_u kN/m²							
せん断	試験条件							
	全応力	c kN/m²						
		ϕ °						
	有効応力	c' kN/m²						
		ϕ' °						

特記事項

1）石分を除いた75mm未満の土質材料に対する百分率で表す。

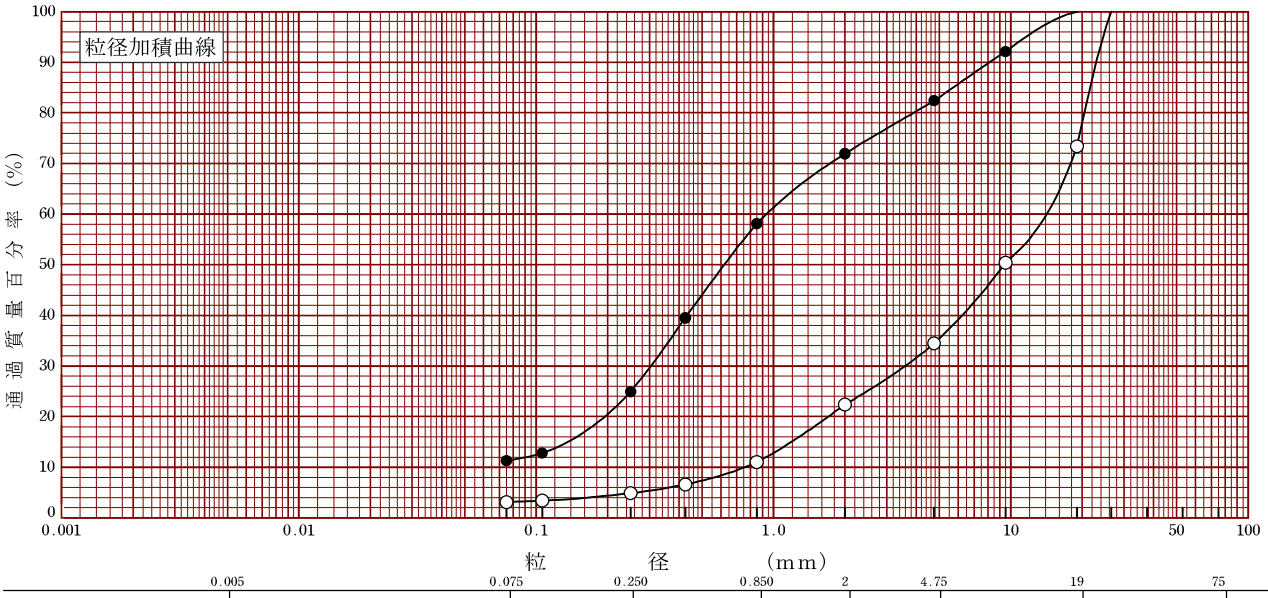
［ 1kN/m² ≒ 0.0102kgf/cm² ］

JIS A 1204 JGS 0131	土の粒度試験（粒径加積曲線）	

調査件名　平成27年度 河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託　　試験年月日　平成28年2月15日

試験者　安斉 仁

試料番号（深さ）	P1-1 (6.15～6.45m)		P1-2 (8.15～8.45m)		試料番号（深さ）	P1-1 (6.15～6.45m)	P1-2 (8.15～8.45m)
ふるい分析	粒径 mm	通過質量百分率%	粒径 mm	通過質量百分率%	粗礫分 %	26.6	0.0
	75		75		中礫分 %	38.9	17.6
	53		53		細礫分 %	12.1	10.5
	37.5		37.5		粗砂分 %	11.4	13.8
	26.5	100.0	26.5		中砂分 %	6.1	33.2
	19	73.4	19	100.0	細砂分 %	1.8	13.6
	9.5	50.4	9.5	92.1	シルト分 %	3.1	11.3
	4.75	34.5	4.75	82.4	粘土分 %		
	2	22.4	2	71.9	2mmふるい通過質量百分率 %	22.4	71.9
	0.850	11.0	0.850	58.1	425μmふるい通過質量百分率 %	6.6	39.5
	0.425	6.6	0.425	39.5	75μmふるい通過質量百分率 %	3.1	11.3
	0.250	4.9	0.250	24.9	最大粒径 mm	26.5	19.0
	0.106	3.4	0.106	12.8	60 % 粒径 D_{60} mm	14.2	0.936
	0.075	3.1	0.075	11.3	50 % 粒径 D_{50} mm	9.36	0.620
沈降分析					30 % 粒径 D_{30} mm	3.59	0.304
					10 % 粒径 D_{10} mm	0.757	-----
					均等係数 U_c	18.7	-----
					曲率係数 U_c'	1.20	-----
					土粒子の密度 ρ_s g/cm^3		
					使用した分散剤		
					溶液濃度、溶液添加量		
					20 % 粒径 D_{20} mm	1.70	0.195
					記号	-○-	-●-



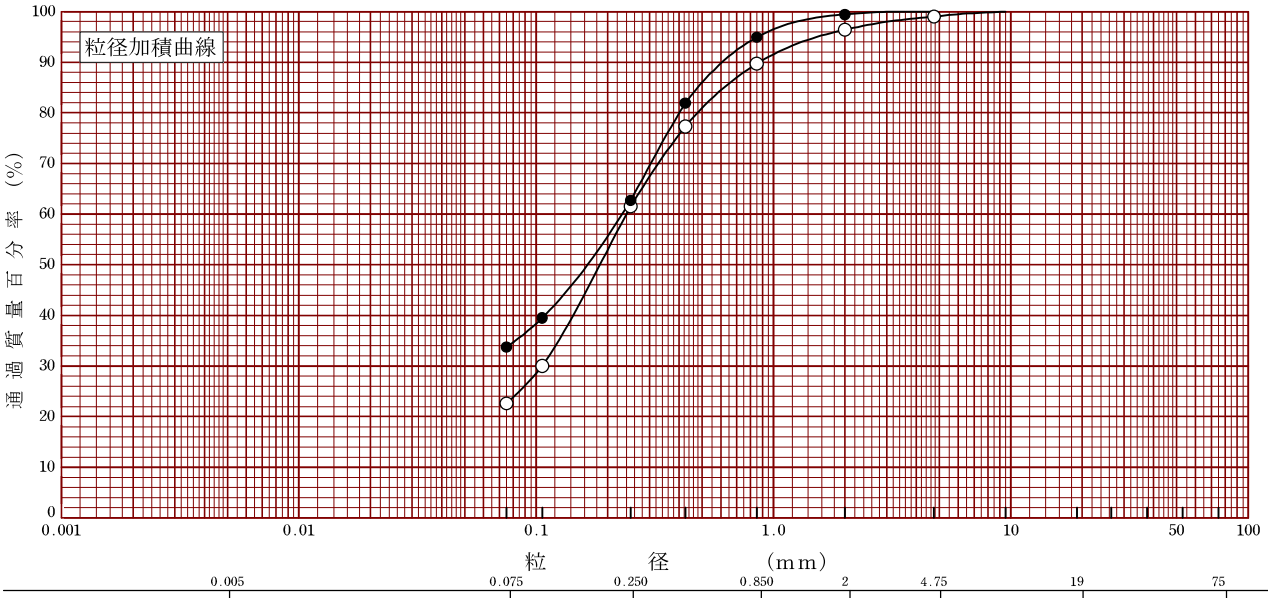
特記事項

JIS A 1204 JGS 0131	土の粒度試験（粒径加積曲線）	

調査件名　平成27年度 河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託　　試験年月日　平成28年2月15日

試験者　安斉 仁

試料番号（深さ）	P1-3（10.15～10.45m）		P1-4（12.15～12.45m）		試料番号（深さ）	P1-3（10.15～10.45m）	P1-4（12.15～12.45m）
ふるい分析	粒径 mm	通過質量百分率%	粒径 mm	通過質量百分率%	粗礫分 %	0.0	0.0
	75		75		中礫分 %	1.0	0.0
	53		53		細礫分 %	2.6	0.6
	37.5		37.5		粗砂分 %	6.7	4.5
	26.5		26.5		中砂分 %	28.2	32.2
	19		19		細砂分 %	38.9	29.0
	9.5	100.0	9.5		シルト分 %	22.6	33.7
	4.75	99.0	4.75	100.0	粘土分 %		
	2	96.4	2	99.4	2mmふるい通過質量百分率 %	96.4	99.4
	0.850	89.7	0.850	94.9	425μmふるい通過質量百分率 %	77.3	81.9
	0.425	77.3	0.425	81.9	75μmふるい通過質量百分率 %	22.6	33.7
	0.250	61.5	0.250	62.7	最大粒径 mm	9.50	4.75
	0.106	30.0	0.106	39.5	60 % 粒径 D_{60} mm	0.240	0.230
	0.075	22.6	0.075	33.7	50 % 粒径 D_{50} mm	0.186	0.165
沈降分析					30 % 粒径 D_{30} mm	0.106	-----
					10 % 粒径 D_{10} mm	-----	-----
					均等係数 U_c	-----	-----
					曲率係数 U_c'	-----	-----
					土粒子の密度 ρ_s g/cm^3		
					使用した分散剤		
					溶液濃度、溶液添加量		
					20 % 粒径 D_{20} mm	-----	-----
					記号	-○-	-●-



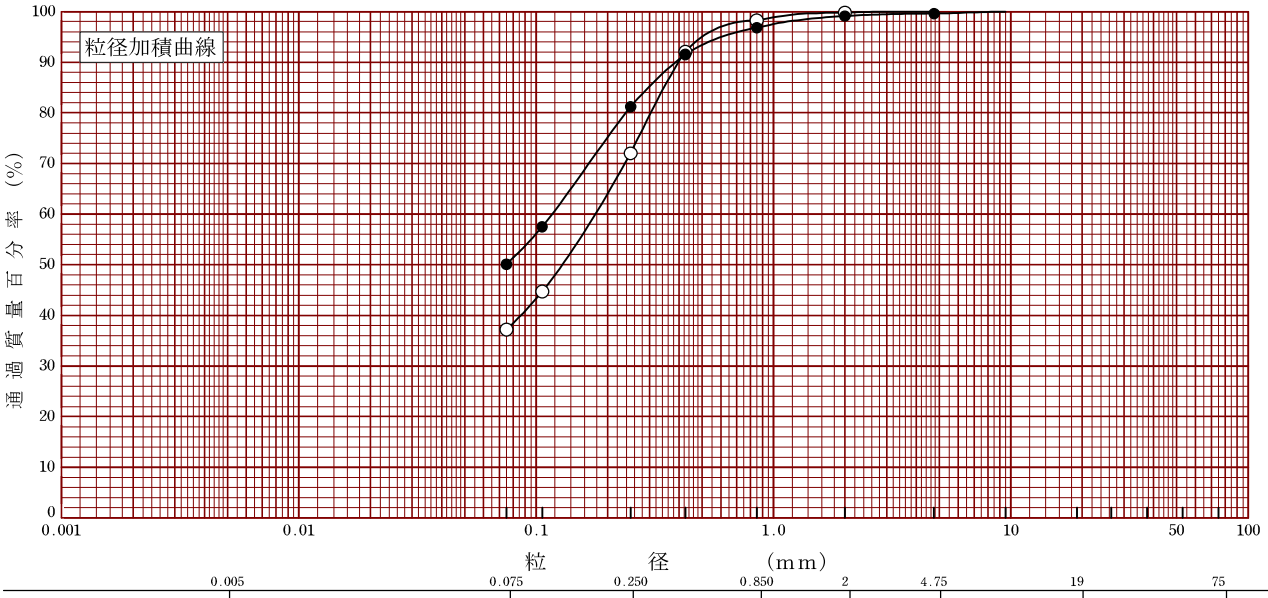
特記事項

JIS A 1204 JGS 0131	土の粒度試験（粒径加積曲線）	

調査件名　平成27年度 河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託　　試験年月日　平成28年2月15日

試験者　安斉 仁

試料番号（深さ）	P1-5（14.15～14.45m）		P1-6（15.15～15.45m）		試料番号（深さ）	P1-5（14.15～14.45m）	P1-6（15.15～15.45m）
ふるい分析	粒径 mm	通過質量百分率%	粒径 mm	通過質量百分率%	粗礫分 %	0.0	0.0
	75		75		中礫分 %	0.0	0.4
	53		53		細礫分 %	0.2	0.5
	37.5		37.5		粗砂分 %	1.6	2.3
	26.5		26.5		中砂分 %	26.2	15.6
	19		19		細砂分 %	34.8	31.1
	9.5		9.5	100.0	シルト分 %	37.2	50.1
	4.75	100.0	4.75	99.6	粘土分 %		
	2	99.8	2	99.1	2mmふるい通過質量百分率 %	99.8	99.1
	0.850	98.2	0.850	96.8	425μmふるい通過質量百分率 %	92.1	91.5
	0.425	92.1	0.425	91.5	75μmふるい通過質量百分率 %	37.2	50.1
	0.250	72.0	0.250	81.2	最大粒径 mm	4.75	9.50
	0.106	44.7	0.106	57.5	60 % 粒径 D_{60} mm	0.178	0.117
	0.075	37.2	0.075	50.1	50 % 粒径 D_{50} mm	0.129	------
沈降分析					30 % 粒径 D_{30} mm	------	------
					10 % 粒径 D_{10} mm	------	------
					均等係数 U_c	------	------
					曲率係数 U_c'	------	------
					土粒子の密度 ρ_s g/cm^3		
					使用した分散剤		
					溶液濃度、溶液添加量		
					20 % 粒径 D_{20} mm	------	------
					記号	-○-	-●-



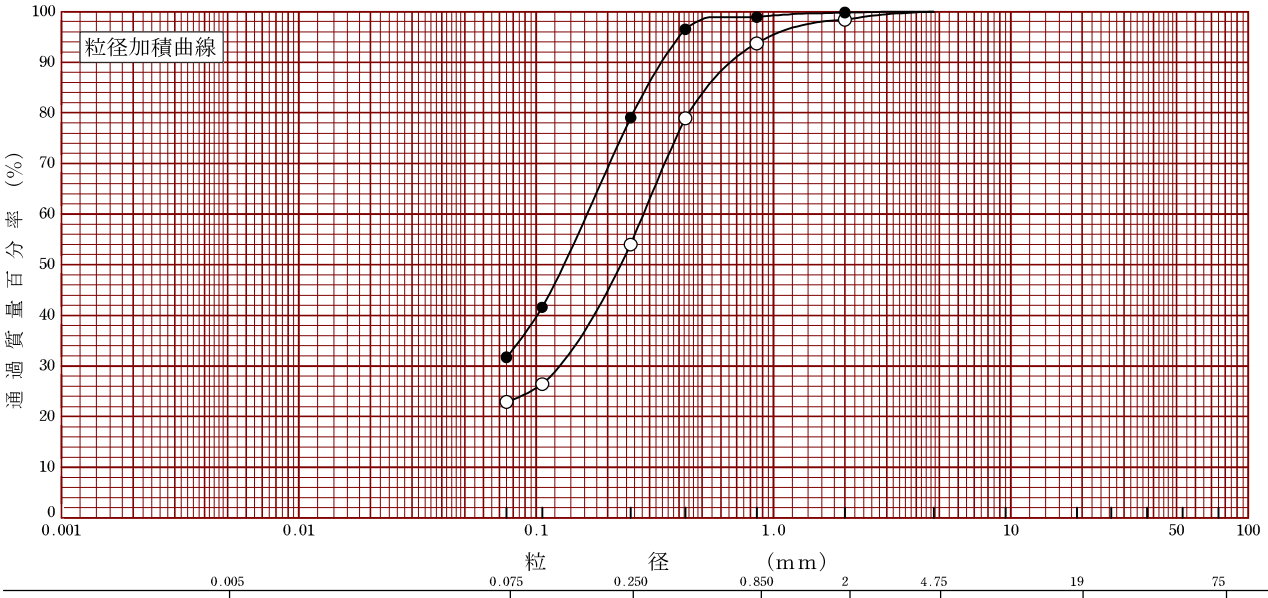
特記事項

JIS A 1204 JGS 0131	土の粒度試験（粒径加積曲線）	

調査件名　平成27年度 河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託　　試験年月日　平成28年2月15日

試験者　安斉 仁

試料番号（深さ）	P1-7（17.15～17.45m）		P1-8（19.15～19.45m）		試料番号（深さ）	P1-7（17.15～17.45m）	P1-8（19.15～19.45m）
ふるい分析	粒径 mm	通過質量百分率%	粒径 mm	通過質量百分率%	粗礫分 %	0.0	0.0
	75		75		中礫分 %	0.0	0.0
	53		53		細礫分 %	1.6	0.2
	37.5		37.5		粗砂分 %	4.7	0.9
	26.5		26.5		中砂分 %	39.7	19.9
	19		19		細砂分 %	31.1	47.3
	9.5		9.5		シルト分 %	22.9	31.7
	4.75	100.0	4.75	100.0	粘土分 %		
	2	98.4	2	99.8	2mmふるい通過質量百分率 %	98.4	99.8
	0.850	93.7	0.850	98.9	425μmふるい通過質量百分率 %	78.9	96.5
	0.425	78.9	0.425	96.5	75μmふるい通過質量百分率 %	22.9	31.7
	0.250	54.0	0.250	79.0	最大粒径 mm	4.75	4.75
	0.106	26.4	0.106	41.6	60 % 粒径 D_{60} mm	0.283	0.164
	0.075	22.9	0.075	31.7	50 % 粒径 D_{50} mm	0.228	0.131
沈降分析					30 % 粒径 D_{30} mm	0.126	――――
					10 % 粒径 D_{10} mm	――――	――――
					均等係数 U_c	――――	――――
					曲率係数 U_c'	――――	――――
					土粒子の密度 ρ_s g/cm^3		
					使用した分散剤		
					溶液濃度、溶液添加量		
					20 % 粒径 D_{20} mm	――――	――――
					記号	-○-	-●-



特記事項

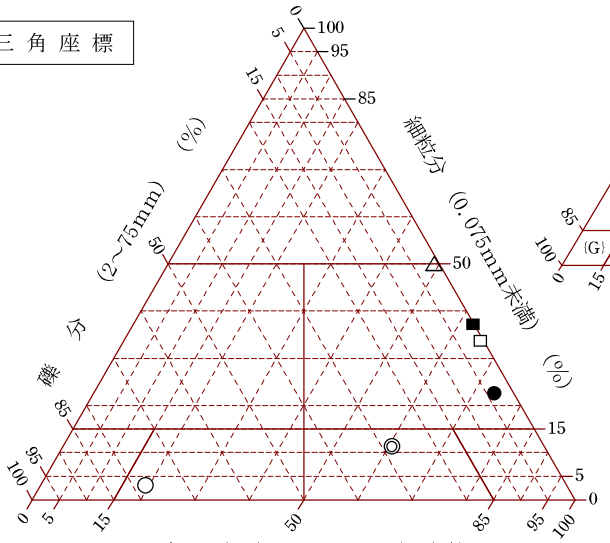
JGS　0051	地盤材料の工学的分類	

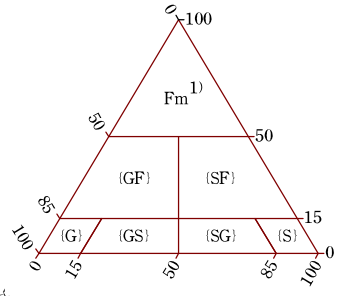
調査件名　平成27年度 河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託　　試験年月日　平成28年2月17日

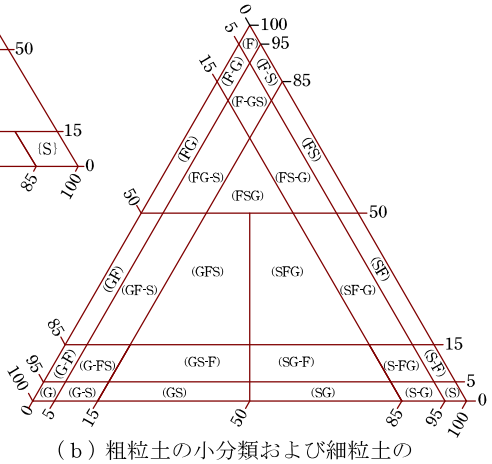
試験者　安斉 仁

試料番号 （深さ）	P1-1 (6.15～6.45m)	P1-2 (8.15～8.45m)	P1-3 (10.15～10.45m)	P1-4 (12.15～12.45m)	P1-5 (14.15～14.45m)	P1-6 (15.15～15.45m)
石分(75mm以上) %						
礫分(2～75mm) %	77.6	28.1	3.6	0.6	0.2	0.9
砂分(0.075～2mm) %	19.3	60.6	73.8	65.7	62.6	49.0
細粒分(0.075mm未満) %	3.1	11.3	22.6	33.7	37.2	50.1
シルト分(0.005～0.075mm) %						
粘土分(0.005mm未満) %						
最大粒径 mm	26.5	19.0	9.50	4.75	4.75	9.50
均等係数 U_c	18.7	-----	-----	-----	-----	-----
液性限界 w_L						
塑性限界 w_P %						
塑性指数 I_P %						
地盤材料の分類名	粒径幅の広い砂質礫	細粒分まじり礫質砂	細粒分質砂	細粒分質砂	細粒分質砂	粘性土
分類記号	(GWS)	(SG-F)	(SF)	(SF)	(SF)	[Cs]
凡例記号	○	◎	●	□	■	△

三角座標



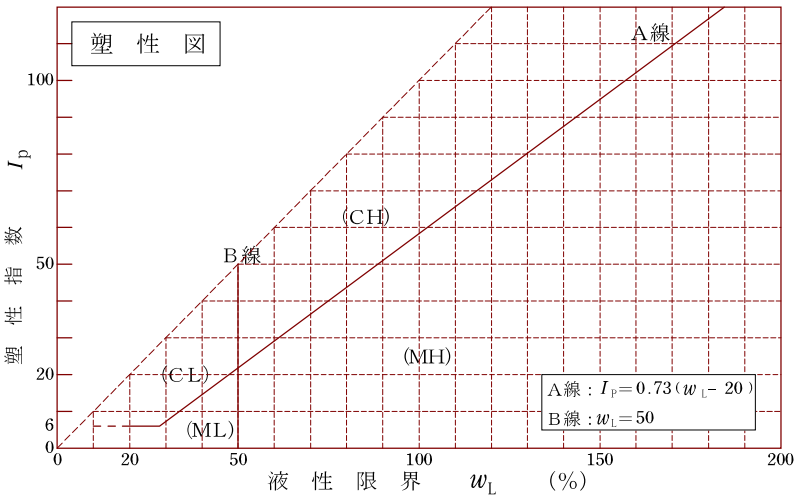




（b）粗粒土の小分類および細粒土の細区分用三角座標

特記事項 1)主に観察と塑性図で判別分類

塑性図



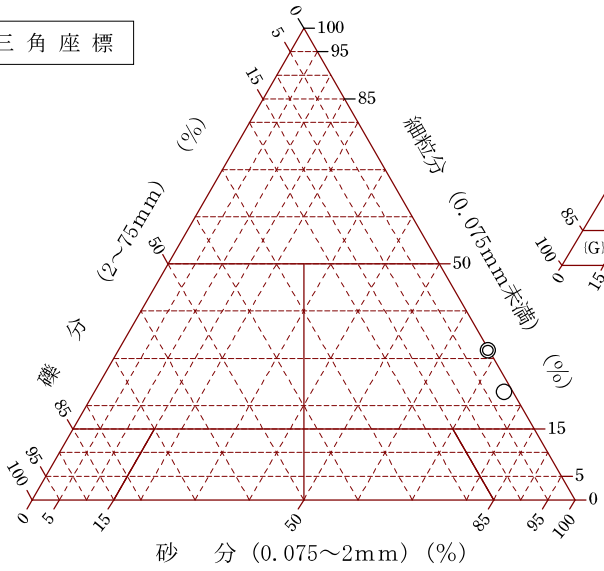
JGS　0051	地盤材料の工学的分類	

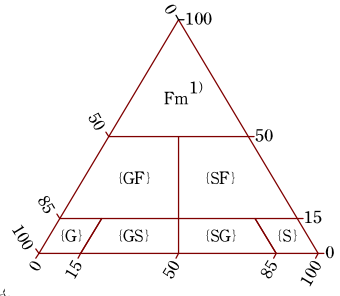
調査件名　平成27年度 河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託　　試験年月日　平成28年2月17日

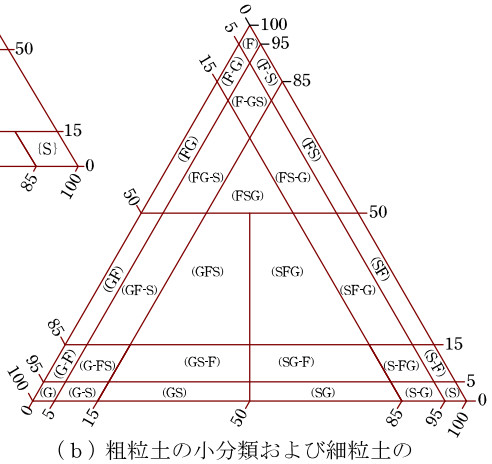
試験者　安斉 仁

試料番号（深さ）	P1-7 (17.15～17.45m)	P1-8 (19.15～19.45m)				
石分(75mm以上) %						
礫分(2～75mm) %	1.6	0.2				
砂分(0.075～2mm) %	75.5	68.1				
細粒分(0.075mm未満) %	22.9	31.7				
シルト分(0.005～0.075mm) %						
粘土分(0.005mm未満) %						
最大粒径 mm	4.75	4.75				
均等係数 U_c	------	------				
液性限界 w_L						
塑性限界 w_P %						
塑性指数 I_P %						
地盤材料の分類名	細粒分質砂	細粒分質砂				
分類記号	(SF)	(SF)				
凡例記号	○	◎				

三角座標



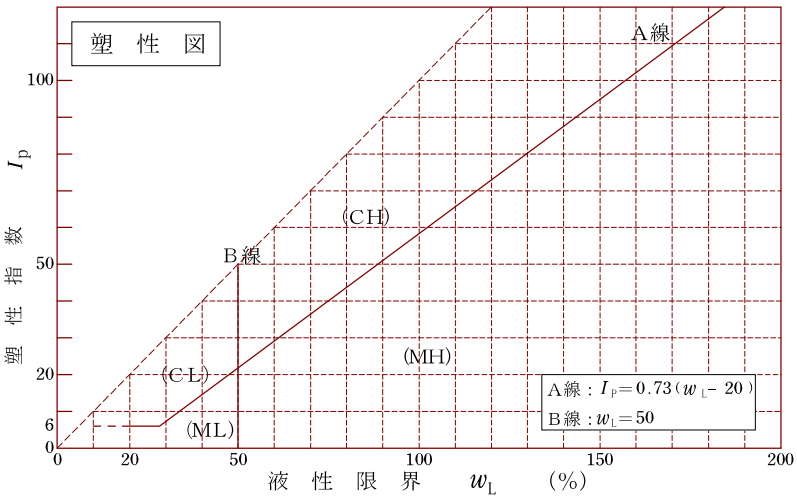




（b）粗粒土の小分類および細粒土の細区分用三角座標

特記事項 1)主に観察と塑性図で判別分類

塑性図



・液状化簡易判定結果

適　用　式	建築基礎構造設計指針式（2001）
タイトル１	平成28年度　河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託
ボーリング名	No.1(前回調査)
孔口標高（m）	H=5.79m
地　下　水　位	GL-4.60(m)
水 平 加 速 度	200.000 350.000（gal）
マグニチュード	8.000
低　減　係　数	0.015
計算対象範囲	地下水位以深　（補正Ｎ値の上限を30とした）

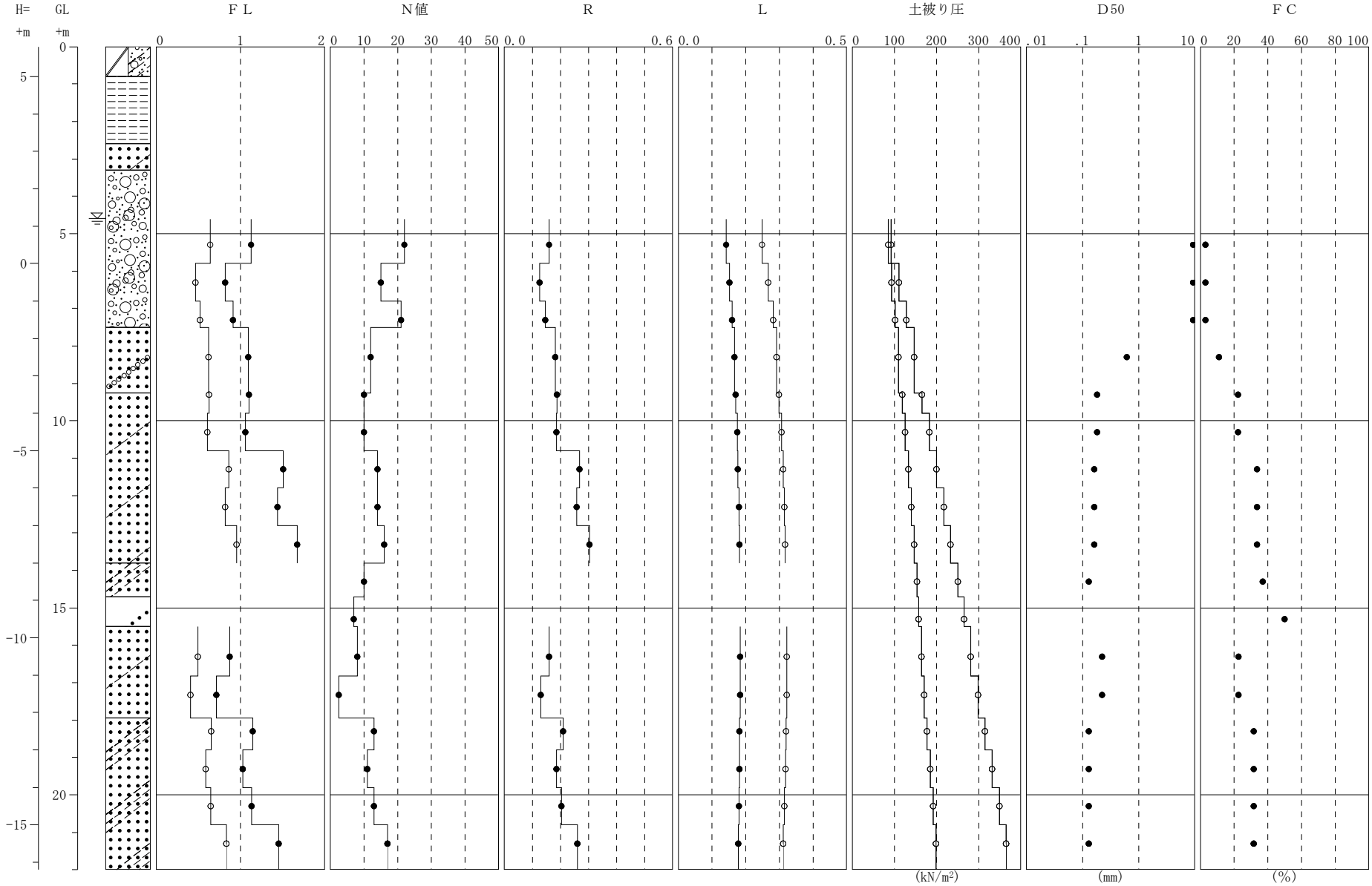
No	下限深度 (m)	γt (kN/m³)	σv (kN/m²)	土質区分
1	0.800	20.00	16.00	盛土(シルト質砂礫)
2	2.600	16.00	44.80	シルト
3	3.300	17.00	56.70	シルト混り砂
4	7.500	18.00	132.30	玉石混り砂礫
5	9.250	19.00	165.55	礫混り砂
6	13.800	17.00	242.90	シルト混り細砂
7	14.700	17.00	258.20	シルト質砂
8	15.500	12.00	267.80	砂混り腐植土
9	17.950	17.00	309.45	シルト混り砂
10	22.000	17.00	378.30	シルト質砂

No	計算深度 (m)	Ｎ　値 (回)	σv (kN/m²)	σv' (kN/m²)	D50 (mm)	ＦＣ (%)	砂礫地盤 補正係数	補正Ｎ値	R
1	1.300	7.00	24.00	24.00	-----	-----	-----	-----	-----
2	2.300	4.00	40.00	40.00	-----	-----	-----	-----	-----
3	3.300	17.00	56.70	56.70	-----	-----	-----	-----	-----
4	4.300	40.00	74.70	74.70	-----	-----	-----	-----	-----
5	5.300	22.00	92.70	85.70	9.3600	3.10	0.608	14.443	0.161
6	6.300	15.00	110.70	93.70	9.3600	3.10	0.608	9.418	0.126
7	7.300	21.00	128.70	101.70	9.3600	3.10	0.608	12.656	0.148
8	8.300	12.00	147.50	110.50	0.6200	11.30	0.926	16.831	0.183
9	9.300	10.00	166.40	119.40	0.1860	22.60	1.000	17.412	0.189
10	10.300	10.00	183.40	126.40	0.1860	22.60	1.000	17.155	0.186
11	11.300	14.00	200.40	133.40	0.1650	33.70	1.000	21.491	0.269
12	12.300	14.00	217.40	140.40	0.1650	33.70	1.000	21.185	0.260
13	13.300	16.00	234.40	147.40	0.1650	33.70	1.000	22.549	0.305
14	14.300	10.00	251.40	154.40	0.1290	37.20	-----	-----	-----
15	15.300	7.00	265.40	158.40	-----	50.10	-----	-----	-----
16	16.300	8.00	281.40	164.40	0.2280	22.90	1.000	14.529	0.162
17	17.325	2.57	298.82	171.57	0.2280	22.90	1.000	10.252	0.132
18	18.300	13.00	315.40	178.40	0.1310	31.70	1.000	18.903	0.210
19	19.300	11.00	332.40	185.40	0.1310	31.70	1.000	17.249	0.187
20	20.300	13.00	349.40	192.40	0.1310	31.70	1.000	18.542	0.205
21	21.300	17.00	366.40	199.40	0.1310	31.70	1.000	21.209	0.261

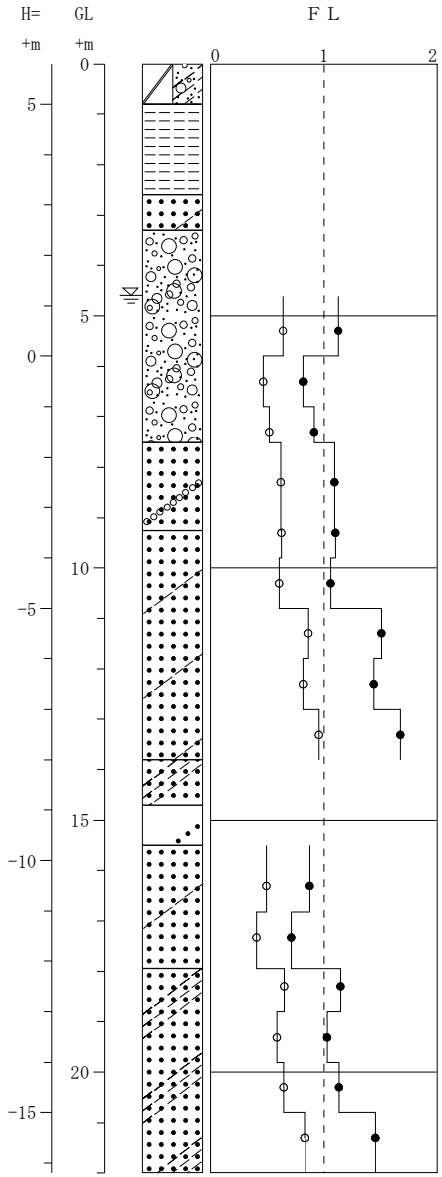
No	外力係数 Ｌ	液状化係数 ＦＬ	外力係数 Ｌ	液状化係数 ＦＬ
1	-----	-----	-----	-----
2	-----	-----	-----	-----
3	-----	-----	-----	-----
4	-----	-----	-----	-----
5	0.142	1.131	0.249	0.646
6	0.153	0.826	0.267	0.472
7	0.161	0.919	0.282	0.525
8	0.167	1.093	0.292	0.625
9	0.171	1.105	0.300	0.631
10	0.175	1.062	0.307	0.607
11	0.178	1.508	0.312	0.862
12	0.180	1.441	0.316	0.823
13	0.182	1.676	0.318	0.958
14	-----	-----	-----	-----
15	-----	-----	-----	-----
16	0.185	0.874	0.323	0.500

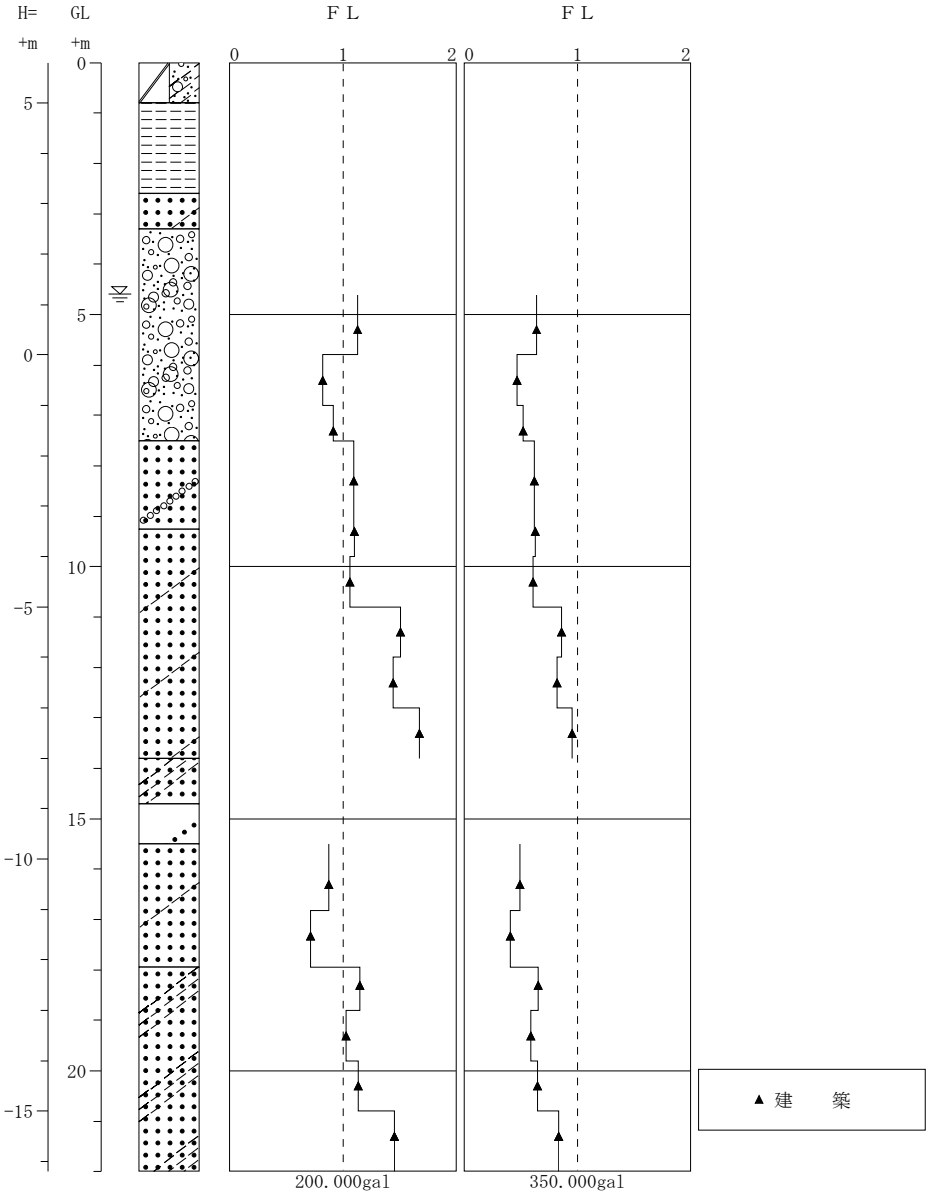
17	0.184	0.716	0.322	0.409
18	0.183	1.148	0.321	0.656
19	0.182	1.029	0.318	0.588
20	0.180	1.134	0.316	0.648
21	0.179	1.459	0.313	0.834
	水平加速度 200.000 液状化指数 PL= 2.299		水平加速度 350.000 液状化指数 PL=19.632	

適　用　式	建築基礎構造設計指針式（2001）
タイトル１	平成28年度　河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託
ボーリング名	No.1(前回調査)
孔口標高（m）	H=5.79m
地　下　水　位	GL-4.60(m)
ＰＬ（加速度）	2.299(200.000gal ●)　19.632(350.000gal ○)
マグニチュード	8.000
低　減　係　数	0.015
計算対象範囲	地下水位以深　（補正Ｎ値の上限を30とした）



適　用　式	建築基礎構造設計指針式（2001）
タイトル１	平成28年度　河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託
ボーリング名	No.1(前回調査)
孔口標高（m）	H=5.79m
地　下　水　位	GL-4.60(m)
ＰＬ（加速度）	2.299(200.000gal ●)　19.632(350.000gal ○)
マグニチュード	8.000
低　減　係　数	0.015
計算対象範囲	地下水位以深　（補正Ｎ値の上限を30とした）



No	計算深度 (m)	Ｎ　値 (回)	γt (kN/m³)	σv (kN/m²)	σv' (kN/m²)	D50 (mm)	ＦＣ (%)	砂礫地盤補正係数	補正Ｎ値	R	200.000(gal) L	200.000(gal) ＦＬ	350.000(gal) L	350.000(gal) ＦＬ
1	1.300	7.00	16.00	24.00	24.00	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
2	2.300	4.00	16.00	40.00	40.00	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
3	3.300	17.00	17.00	56.70	56.70	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
4	4.300	40.00	18.00	74.70	74.70	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
5	5.300	22.00	18.00	92.70	85.70	9.3600	3.10	0.608	14.443	0.161	0.142	1.131	0.249	0.646
6	6.300	15.00	18.00	110.70	93.70	9.3600	3.10	0.608	9.418	0.126	0.153	0.826	0.267	0.472
7	7.300	21.00	18.00	128.70	101.70	9.3600	3.10	0.608	12.656	0.148	0.161	0.919	0.282	0.525
8	8.300	12.00	19.00	147.50	110.50	0.6200	11.30	0.926	16.831	0.183	0.167	1.093	0.292	0.625
9	9.300	10.00	17.00	166.40	119.40	0.1860	22.60	1.000	17.412	0.189	0.171	1.105	0.300	0.631
10	10.300	10.00	17.00	183.40	126.40	0.1860	22.60	1.000	17.155	0.186	0.175	1.062	0.307	0.607
11	11.300	14.00	17.00	200.40	133.40	0.1650	33.70	1.000	21.491	0.269	0.178	1.508	0.312	0.862
12	12.300	14.00	17.00	217.40	140.40	0.1650	33.70	1.000	21.185	0.260	0.180	1.441	0.316	0.823
13	13.300	16.00	17.00	234.40	147.40	0.1650	33.70	1.000	22.549	0.305	0.182	1.676	0.318	0.958
14	14.300	10.00	17.00	251.40	154.40	0.1290	37.20	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
15	15.300	7.00	12.00	265.40	158.40	-----	50.10	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
16	16.300	8.00	17.00	281.40	164.40	0.2280	22.90	1.000	14.529	0.162	0.185	0.874	0.323	0.500
17	17.325	2.57	17.00	298.82	171.57	0.2280	22.90	1.000	10.252	0.132	0.184	0.716	0.322	0.409
18	18.300	13.00	17.00	315.40	178.40	0.1310	31.70	1.000	18.903	0.210	0.183	1.148	0.321	0.656
19	19.300	11.00	17.00	332.40	185.40	0.1310	31.70	1.000	17.249	0.187	0.182	1.029	0.318	0.588
20	20.300	13.00	17.00	349.40	192.40	0.1310	31.70	1.000	18.542	0.205	0.180	1.134	0.316	0.648
21	21.300	17.00	17.00	366.40	199.40	0.1310	31.70	1.000	21.209	0.261	0.179	1.459	0.313	0.834

適　用　式	建築基礎構造設計指針式（2001）
タイトル１	平成28年度　河津町複合施設整備に伴う地質調査業務委託
ボーリング名	No.1(前回調査)
孔口標高（m）	H=5.79m
地　下　水　位	GL-4.60(m)
ＰＬ（加速度）	2.299（200.000gal）19.632（350.000gal）
マグニチュード	8.000
低　減　係　数	0.015
計算対象範囲	地下水位以深　（補正Ｎ値の上限を30とした）